

まちづくりネットワーク

協働ってなに？

市民・NPO・企業・行政が力を合わせ新しい公共へ

最近、「協働」という文言をよく耳にします。

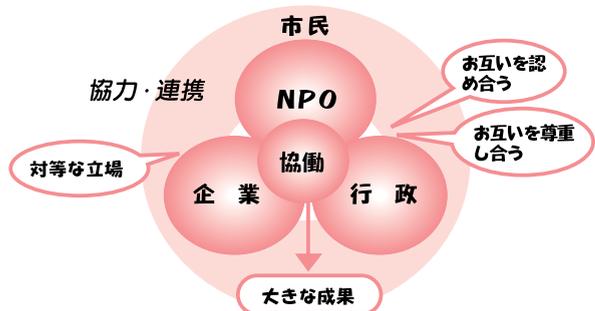
共同「一緒に使う。同等に扱う。共同「力・心を合わせて事に当たる。では、この「協働」は、どのようなことなのでしょう。手と手、力と力を合わせて、ともに働く・汗を流す。文字からするとそういう意味になります。



10月21日小さな親切運動安久路公園

「新しい公共」へ

これまで市民サービスは、行政が行うものと市民は考えていました。例えば、サッチャー元首相以前のイギリスでは、「ゆりかごから墓場まで」という思想で、市民からの要望のすべてを行政に依存していました。その結果、国家運



営は行き詰まり、再生を余儀なくされたのです。日本でも行政改革の中、これまで行政が行ってきた公共サービスのうち、

できることは市民・市民活動団体または、企業が担う「新しい公共」という考え方が生まれてきました。

信頼できる関係 「パートナーシップ」

それでは、行政・市民そして企業が「協働」を実践するには、どのようなことが必要なのでしょう。新しい市民サービスを提供する市民や市民活動団体は、責任を持つ組織としては未成熟で、継続的なサービスの提供には不安があります。また、これまでサ

ビスを担ってきた行政に対し、市民はなぜこれまで通りにできないのかと不満があります。これでは、信頼し合うパートナーとはいえず、「協働」の実践には至りません。対等な立場で、共通な目的に向かつて、信頼し合い、課題解決に努めることが必要です。

これからのまちづくりへ

行政は「新しい公共」の考えのもと、市民を支える存在としてその姿勢を今一度確認することが求められます。市民としては、どうでしょう。私たちが住むこのまち、未来を担う子どもたちが健康やかに育つこの地域を守るには、やはり住民である我々です。誰かがやってくれる時代ではありません。できる範囲で少し意識してみることが大切です。その行動を組織化するこ

とで、より継続的な活動になり、それがNPO・市民活動へとつながるのです。



10月8日 ニッセの里 黒米の稲刈り

ネットワークから ネットワークキングへ

だれもがまちづくり情報の共有化の必要性を認めています。しかし、縦割りの行政では、その中だけの情報交換にとどまり、真のネットワークとはいえません。それをつなぐことこそネットワークキングであり、市や磐田NPO交流センターのホームページなどへ分りやすく掲載していく手法などが考えられます。また、協働を実践するには、市民・行政・企業においてもそれをコーディネートする人材の養成が不可欠です。

磐田市の取り組み

現在、今後10年の磐田市のみちしるべとなる総合計画を策定中です。その中に、協働のまちづくりの指針策定が取り上げられ、公募市民や行政職員などによる「協働のまちづくり会議」が開催されています。磐田独自の「協働」のまちづくりの指針になるように議論が進んでいます。パブリックコメントなど市民の意見を求める場もあります。皆でじっくりと考えていきたいと思います。

動き出した大きな輪。わ。和

各団体の市町村合併後の動き

パートII

磐田市子ども会 育成者連合会

加があり、子どもたちだけでなく保護者からも高い評価をいただきました。



仲間といっしょにがんばるぞ
球技大会（磐田ブロック）

平成16年度より役員による合併協議会を設け、毎月協議を重ねてきました。「合併するメリットは？」「会員に理解してもらおうためには？」などをはじめ、組織・規約・事業など、多くの課題がありました。特に事業については、各地区の地域性と活動経緯があるため、統一は難しい問題であり、時間をかけて検討しました。

合併後スタートした1年目の事業は、広報紙の発行にとどまりました。

2年目の今年度は、初の統一事業「砂の造形大会」を



できたよ 新市のマーク

チーム、1300名の参加より35全地区

新「NPO法人磐田市 体育協会」

磐田市全地区の子どもたちが楽しく参加できる事業の企画立案を工夫し、子どもたちの健全育成に努めていきたいと思いません。

市町村合併に伴い、新「NPO法人磐田市体育協会」としてスタート。

現在の加盟団体は32団体となつていきます。当協会は、体育・スポーツの振興、競技力向上、地域スポーツによる健康増進、

健全なる子供の育成等を目的とし、日々まい進しています。

主な事業としては、磐田市総合体育館をはじめとした市内スポーツ施設の管理を受託。健康増進のためのヨガ教室、60歳以上の方を対象としたさわやか教室等の各種教室、「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」などがあります。



ジュビロ磐田メモリアルマラソン



磐田100キロウォーク

他にも今年度より「第1回いかまい磐田100キロ

ウォーク」を開催しています。この大会は1年間で旧5市町村5大会を開催し、各20キロを歩くことにより、年間で100キロを踏破するウォーク大会です。本年度は、平成19年2月25日に「とよおかり山ウォーク」を残すのみとなっておりますが、来年もぜひ、健康増進と我が町新発見をするためご参加をお待ちしています。

磐田市文化協会

平成18年5月、5つの文化協会が合併し、新しい「磐田市文化協会」がスタート。平成15年2月に「磐南文化協会合併協議会」を設立して、30数回の協議を重ねていく中で「文化」についての考え方や「協会の在り方」「協会と加入団体の関係」「行政との関わり」等多様な実態のあることを知り、合併は無理かと思つたこともありました。しかし、一つの行政区に5つの文化協会が存在する

ことは混乱を招き、地域文化の発展にはつながらないと考え、旧市町村の文化協会を「支部」とし、それまでの活動は基本的に継続するという形で合併しました。その上で芸能祭を取りやめ、事業すべてを市の委託事業として芸術祭と文化祭にし、観月会、音楽祭、絵画展、書初め展、まんが教室等、地区独自の事業は支部自主事業として継続することにしました。文芸誌は、「文芸磐田」に統一し、全体に関わる事業は、広報紙の発行を通して多くの団体や支部の活動を紹介し、理解を深めています。地道な活動を通して共通理解を深めながらよりよい方向を求めていきたいと願っています。



観月会

まちづくりの現場から

冒険キッズの宝島・ふれあい広場で
まちづくりサポーター奮闘



すてきな3人組の大型紙しばい

10月29日(日)兎山公園で冒険キッズの宝島・磐田支部ふれあい広場が同時に開かれました。芝生広場ステージでのいずみ第二保育園児鼓笛隊によるオーブニングに続き、来賓を代表して鈴木望市長が「行政の縦割りをこえて、今年はこのイベントを一本化しました。子供・高齢者・障がいを抱えている人びとが共に交流できることに感謝して一日楽しんで下さい」とあいさつ。メインステージでは楽しいパフォーマンスの連続で盛り上がりまし



とんだ とんだ 竹とんぼ

た。ふれあい広場催事場は、赤や青の40を超すボランティア団体のテントが並び、閉会までたくさんの人で賑わっていました。

まちづくりサポーターは3年連続出展。竹とんぼ・折り紙・塗り絵(カラーセラピー)の体験コーナーには、子供たちの長蛇の列ができていました。ステージでは大型紙しばい・自転車トライアル(障害物の飛越など)に拍手喝さい。児童館のマジックショーもいつまでも歓声につつまれていました。まちづくりサポーターとしての技能を発揮できた一日でした。

あなたの力をまちづくりに… 連続講座第1弾

11月3日(金)、磐田NP活動推進協議会主催の講座を開催。講師は、NPO法人静岡県ボランティア協会事務局長の鳥羽茂氏とヤマハ発動機株の竹原克紀氏。現役の時から退職後につながるまちづくり活動を行っていただければ、地域社会での生きがいある豊かな暮らしに結びついていくものです。



我が社の社会貢献活動は…

そういつた意識のもち方、関わり方などをうかがうとともに地元企業の社会貢献活動に対する姿勢・活動の様子を話していただきました。今後は、企業の枠を越えて、より地域に密着し、多くの市民とともに活動する場を相

互につくりたいという課題を共有することができました。今回を初めの一歩として今後も市民活動団体と企業とがネットワークできることから進めていけるよう願っています。

国分寺をまちづくりにいかそう 第5回全国国分寺サミットin遠江 & 国分寺まつり開催



下野市・佐渡市・豊川市・みやこ町・磐田市の
首長によるパネルディスカッション

第5回全国国分寺サミットが遠江の国磐田で開催。11月11日(土)アマミューズ豊田で行われたサミットは、安原啓示京都造形芸術大学客員教授の基調講演の後、13の参加市町から5市町首長によるパネルディスカッションが行われ、史跡の保存状況と有効活用、次世代に引き継いでいくため、国分

寺を活かしたまちづくり、人づくりに取り組んでいくことの重要性が確認されました。

12日(日)は、史跡公園で国分寺まつりを開催し、七重の塔の高さを再現したクレーン吊りや瓦屋根風テントの出展ブースなど多彩な催しがありました。掛塚屋台囃子保存会の演奏の中行われた国司訪問の特別イベントは、遠州のからつ風にもめげず大勢の観客が魅せられたひとときでした。

史跡公園では、現在昭和26年以来となる本格的な発掘調査が行われています。磐田の宝のひとつである遠江国分寺跡に人が集い、地元商店街や国分寺を考える会の皆さんと力を合わせ、国分寺まつりとして定着していくことを期待します。



天平時代を再現・国司訪問

